

## 平成29年度 第2回 長浜市子ども・子育て会議 要点録

日時 平成29年11月13日（月）午後1時30分～午後3時00分  
場所 長浜市役所3階 3-Bコミュニティルーム  
出席者 西川委員、井関委員、杉山委員、宮崎委員、田中委員、野田委員、  
長委員、吉井委員、前田委員（9人）  
【事務局】 幼児課：横田、森、西村  
子育て支援課：鶴飼、益田、前畠、涌井  
欠席者 大橋委員、富岡委員、坂本委員、山仲委員、池田委員、熊谷委員（6人）  
傍聴者 なし

《開会》

事務局

それでは定刻になりましたので、ただ今から「平成29年度第2回長浜市子ども・子育て会議」を開催します。

本日の傍聴者はおられません、「附属機関等の会議の公開等に関する要綱」に基づき、本会議は公開となっていますのでご了承願います。

事務局

続きまして、子育て支援課長よりあいさつ申しあげます。

《課長あいさつ》

事務局

本日の資料の確認をさせていただきます。

《配布資料の確認》

また、本日、大橋委員、富岡委員、坂本委員、山仲委員、池田委員、熊谷委員はご欠席ですが、本会議は「子ども・子育て会議規則第4条第3項」に規定する過半数の出席がありますので、成立することをここにご報告いたします。

では、議事に入りたいと思います。「子ども・子育て会議規則第4条第2項」により「会長は会議の議長となる」とありますので、ここからの進行は西川会長にお願いいたします。

会長

皆さんこんにちは。

第1回目の会議は、初めての委員さんもいらっしゃったので、顔合わせとどのような計画かということを確認したものでした。お手元に計画の概要版がありますが、平成27年度から平成31年度までのものですので、今年度が中間年となります。数値や文言が現状にそぐわなくなっている部分を見直して、今日をご審議いただいて決定するという非常に重要な会議になります。そ

れぞれのお立場からご意見を賜れば幸いです。

では、(1) 長浜市子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直しについて事務局から説明をお願いします。

事務局

《資料3、概要版により説明》

会長

ありがとうございます。

施策の展開のカラーの資料で、修正のところは赤字にさせていただいていますので、非常に見やすくさせていただいています。まず、ご質問からお受けしたいと思いますがいかがでしょうか。

委員

質問ではないですが、資料によって、保育所、幼稚園、認定こども園の順に書いているところと、幼稚園、保育所、認定こども園の順に書いてあるところが混在しています。また、保育園という表示もあるので保育所に統一した方がよいと思います。

事務局

事業計画書のとおり、幼稚園、保育所、認定こども園の順に統一します。

会長

私の方から質問です。P16の10番の追加のところですが、多子世帯への保育料の軽減がありますが、第1子、第2子のカウントの仕方は年齢に関係なくでよろしいか。他市町によっては幼児期でないとカウントしないというところもありますのでお聞きします。

事務局

会長のおっしゃったとおり、年齢に関係なくですので、例えば保育園児、保育園児、小学生でも2人目半額、3人目無料という考え方になります。

会長

もう一点、P40、P41ですが、幼稚園における一時預かり事業ですが、中間年における方向性を読まないで表だけ見ると後退しているのかということになりますが、今の説明ですと、保育の方で量を確保していくということで、この事業からは外すけれども、幼稚園の今後の子育て支援については、国も示しているようなことなどの検討を行っていくという理解でよろしいですか。

事務局

はいそうです。

会長

全体的に数値が大きく変わっているところの見直しをされたということですが、計画策定の時も大規模なアンケート調査をされ、見込みを出されていたと思いますが、今回の予測量の出し方を教えていただけますか。

事務局

今回は平成27年度、28年度、29年度の上半期の実績をベースに予測量を算出しています。

委員

P8の保育士等の人材の確保（奨学金の返還支援）ですが、これから始まるのですか。

事務局

事業としては今年度から仕組みはできていて、来年度採用の者から募集し支援金を交付する予定です。

委員

病児病後児保育は何か所あったのですか。

事務局

ひよこ乳児保育園で病後児保育を行っていただいております。この1箇所が当面続くと予測しまして計画値にあげておりましたが、H28年度にまちのほけんしつという医療機関で病児保育事業を始めていただき、広く利用できるようになりましたので、提供量も大幅に変わっております。

委員

P36 放課後児童クラブのところに「共働き世帯・・・」とありますが、最近では女性の社会進出などという言葉が使われていて、共働き世帯という言葉はあまり使われなくなった気がしますので、気になりますが。

会長

他何かご意見等ありますか。

委員

資料3の延長保育についてですが、保育士が残業するということですか。

事務局

早朝から夕方まで保育の希望がありますが、保育士にはシフトがいろいろありますので、組み合わせながら、保護者の事情に応じた保育を展開しているということです。

会長

今のお話は、保育士の労働負担増になっていないかどうかということだと思いますが、労働時間などはしっかり管理していただいているということですね。

事務局

そのとおりです。

委員

P 3 5 放課後児童クラブの指導員とありますが、支援員でよろしいか。

事務局

はい、今は支援員に統一していますので、修正させていただきます。

会長

では、(2)の意見交換に入ります。ご意見でも感想でも結構です。何かありませんか。

では、私から、P 8 奨学金の返還支援は画期的な取組だと思います。他市町では、勤めたら奨学金の返済を免除しますということはあると思いますが、返還金を助成するという取組は珍しいです。長浜市が先駆的にやっておられるのですか。また、とても魅力的な取組ですので、今年度の採用試験は人数が増えたのではないですか。施策の効果はいかがですか。

事務局

この事業について、幼児教育職に特化しているのは全国でも珍しいのではないかと考えています。学生支援機構の奨学金を対象にしています。保育士確保が重要だということで、今年5月に制度を設け、学生にPRしたり、民間施設に勤めた人にも対象とするとして、各施設にも周知しました。調査まではできていないので、この効果で採用試験の応募数が増えたのかどうかは分かりませんが全体としては申込人数は増えました。

会長

続けるならぜひ、採用後に聞き取りしてほしいですね。

委員

保育士のなり手がなくない根本的な問題は何ですか。待遇か、事務量か、行政などが求めすぎる資料が多いのか。

## 会長

研究者の立場から申し上げますと、保育所などは公定価格ということで、いくら保護者が払う保育料が変わっても、国の補助金額は決まっているので、最大限パイは決まっています。企業のようにたくさん売れば儲かるという仕組みがあるわけではないので、給料に反映できるわけではありません。給料をあげられないので家賃負担など手当でカバーしている状況です。

働き方、人材不足のしわ寄せはどこにくるかという今勤めておられる先生方に来るわけで悪循環の負のスパイラルに陥っている複合的な要素が絡み合っています。ある芸能人が言った言葉のように、保育士は誰でもできる仕事という社会の認識と専門性が全く理解されていない現状です。

## 委員

新聞に小学校5年生のアンケートで、なりたい職業第2位に保育士がはいっていた。にもかかわらず、現実には人材が不足しているということはなぜか。労働の大変さに見合った賃金ではないのかということや、持ち帰りの仕事があり家庭を犠牲にして仕事しているという大変さ。また、大学では学生が保育実習に行つて今まで描いてきた理想とのギャップがあり保育士をあきらめてしまうことの悩みを持っておられます。賃金改定、労働時間の見直しなどしていかないと保育士の確保は難しいのではないかと思います。

## 委員

保育所職員は、やりがいをもって勤めています。日常の保育の他に、長時間保育の子どもの増加などには、時差出勤で工夫をしていますが、どうしてもやらなければならないことは、残っていますし、加えて保護者対応、外国籍の子どもの対応など様々なことがあります。しんどさは抱えていますが、やりがいをもって、また国家資格を持ったものが保育をしていますので、誰でもできる仕事ではないです。やりがいがあることをもっと表に出していきたい。

## 会長

やりがいを持ってやっていることが見えてこないのが、保育職はなり手が少ないことが大学での現状です。うちの大学では小学校の教員免許がとれますが、ほとんどの学生が小学校に行きます。保育職にはいきません。どこか保育職は厳しい、大変だと刷り込まれている認識を断ち切らないといけませんね。そういう意味では、今回の中間見直しには画期的なことを出していきたいと思っています。

## 委員

最近米原市に住所変える社員が多いので教えていただきたいのですが、米原市は医療費が中学校まで無料なのですか。

事務局

長浜市は小学校に入るまで無料ですし、米原市は中学校まで無料です。この違いは何かと言いますと、一つに長浜市は市民病院を抱えていることです。医療費が無料になるとコンビニ受診を誘発し、ひいては医師の疲弊につながって医師確保に支障があるので踏み切れない現状があります。米原市はそう考えではなく、子育て支援の部分だけを考えてされたのではないかと思います。

一方で長浜市は給食費の無料、保育料軽減などを独自でやっています。どこに力を入れているかということです。

会長

子育て支援施策をどこに力を入れていくかということですね。それぞれ視点が違っていますので、比べられないですね。

委員

同じく保育士不足の現状ですが、書類の処理に関してはICT化を導入しながら、限られた人数の職員で努力しています。

委員

スクールガードに関してですが、下校のチャイムが鳴ると地域で見守りにでて見守りをしていくことを地域に広げていきたいと学校から聞いていますので、このようなことも進めていってほしいです。

給食費の無料化も今は小学生ですが、今後、保育園・幼稚園、中学校まで拡大していけば少子化も防げるのではないかと思います。

事務局

市民満足度調査では、小学校の給食費無料化は非常に高い評価を受けています。今後、対象を広げるかは財政的な面もあるので検討課題です。また、国の動きとして政策パッケージを示される予定ですので、それも進めていく必要があると考えています。

会長

今ほどのパッケージの説明をもう少し詳しくしていただけますか。パッケージの施策を進めていくことで国から予算がつくという考え方でよろしいですか。

事務局

幼児教育の無償化や待機児童対策など言われていますが、具体的な施策はまだ示されていません。誰が主体に行うのかも明確ではありません。財源の問題もありますし、こちらも国の動きを注目している段階です。

スケジュール的にこのパッケージ化の施策を今回の計画の見直しに載せるには難しいですが、やるべきことはやっていきたいと思いますのでご了承いただきたいと思います。

会長

まだまだ流動的な部分が多いですので、次回の会議にはお知らせしていただけるのかと思います。

では、その他報告事項に移ります。事務局からお願いします。

事務局

先にお知らせしていましたが「子育て応援フェスタ」の日時と場所が変更になりました。来年平成30年3月25日（日）浅井文化ホールで行います。委員の皆さまもぜひご参加いただきますようお願いいたします。

会長

では、本日の議事は以上になりますので、事務局にお返しします。

事務局

閉会にあたりまして、子育て支援課長からお礼申し上げます。

課長

皆さま本日は長時間にわたりご審議ありがとうございました。

現場の声も聞かせていただきましたので、保育士確保はもとより離職防止に力を入れていく必要があると認識しました。またここで出た意見は関係課にも伝えていきたいと思っております。

(閉会)